



## 価値ある美しい木

神戸国際支縁機構 理事  
宮城学院女子大学教授

新免 貢

知り合いの被災者から年賀状が届きました。「お変わりございませんか。当方は貧困フリーター、Wワーク、夜勤シフトに追いつまられています。東京での避難生活は心身共に疲弊しました。」「アベノミクス」は被災

## 石巻市 渡波 収穫祭

わたのは  
石巻市 渡波 収穫祭  
長、阿部清義大宮町区長、千葉幸一宇田川行政区長と続きました。多忙な中、石巻森林組合鈴木健一代表理事組合長もあいさつをなさいました。

のり（漁業協同組合長丹野氏提供）を包んだ古代米のおにぎりの味はどうか、ポランティアは不安でいっぱいでした。固い、ねばっこさがない、甘くないと瑞穂の国では米の味に敏感ですから、食後の感想を恐る恐る聴いてみました。すると皆さん、「おいしい」の連発。牡蠣汁も好評でした。調理の腕のきわめつけとして、鹿肉による汁ものも調理して

渡波ではじめて、秋の収穫祭をするようになりました。渡波地区振興協議会が主催で、当機構も参加することになりました。十一月二十日十時、開始。万石浦幼稚園の園児たち六十名がよさこい踊りを踊ってくれました。鳴子を手に元氣よく踊る姿に、出席者は励まされたのか、アンコールの声も掛けられ再度演じてくれました。来賓のあいさつとして、末永秀雄渡波町区長、丹野清市会議員、米谷富宏支所

者には実感しにくいのです。震災が金儲けの機会として利用されつつあります。「お金がすべて」に抗う仕方で、神戸国際支縁の働きは、人が人として人を支えることを貫きます。まるで、激流のそばで、流されそうに流されないしなやかな木に似ています。大木ではありませんが、弱さを「いのち」として立ち続ける木は、樹齢千年超えの天然記念物よりも価値があり、美しいのです。

提供しました。臭みなどなく、肉も柔らかく豚汁では味わえない高級料理でした。生まれではじめて食べる人たちも、お代わりをなさいました。十二時間の準備の成功の背景には、地元の婦人会の献身的な思いやりがこもっていたことは言うまでもありません。佐藤金一郎氏の手品にも聴衆は沸いて、笑いました。

ビンゴゲームの司会 藤本志帆さん、宮崎萌美さん、小川沙織さんが担いました。若いも若き番号の発表に一喜一憂しました。なにしろ高齢者たちもいるから、「もつとゆっくり数字をもう一度」と何度も催促されまし

### 渡波の秋祭りにぎわう ポランティア団体が協力

第3012号 平成24年11月30日 (毎週金曜発行)

石巻市渡波地区振興協議会(会野雄、会長)主催の「田・山・湾の恵みで住民交流」が20日、渡波の秋祭りで開かれた。ポランティアは、国際支縁機構、岩村義雄理事長、宮城学院女子大学教授新免貢氏、丹野清市会議員、米谷富宏支所長、阿部清義大宮町区長、千葉幸一宇田川行政区長と続きました。多忙な中、石巻森林組合鈴木健一代表理事組合長もあいさつをなさいました。



描いた衣装で「ヨサコイ」や「ソーラン」踊りを踊る子どもたち。イベントを盛り上げた。

た。するとニコニコと大学生たちが、応じる姿も好感がもたれました。

次に、わたしたちが毎回宿泊する修空館の小野寺脩館長による「百二十歳の長寿をめざす体操」が演じられました。ユーモアいっぱいの指導に全員、年齢を忘れて笑い転げるように、鳥、猿、虎、熊、鹿になりきって固い体を動かす。皆さんは十歳若返った顔をしていたようです。

吉野雄一会長から神戸国際支縁機構にねぎらいの言葉をいただきました。何の役にも立っていないのにもどかしい気持ちでした。最後に千葉氏が来年の秋以降も収穫祭をつづけたいと締めくくりました。

大震災は無縁社会、孤族をますます広めた中高年男性に「自己責任」をせまることはできません。地縁、血縁の関係をずたずたにした震災の影があります。新しい縁作りに収穫祭は息を吹き込むきっかけになればいいなあと地元の指導者たちは期待しています。

(R・N)



## 在宅被災者戸別訪問

事務局員 吉川 潤

伊勢町のレポートは前回に続きます。

地震の大きな揺れの後、娘さんと手をつないで逃げ、一命を取り留めた豊嶋さん親子がはじめて話された体験を紹介します。母親（八十代）とその娘さん（五十代）です。十一月二十日の渡波公民館の収穫祭にもご出席くださいました。

大きな揺れの後、二人は避難所の渡波小学校へ向かいま

した。雪が降っていたため長靴を履き、傘をさして逃げました。「私たちは、もう一度地震きたら家が倒れんじゃないかと思って、逃げなきゃっていう気持ちだけだった」。途中で、避難所指定の渡波小学校も危ないと聞き、渡波駅ホームのフェンスにつかまっていた時に津波に吞まれてしまいました。ずっと互いの手を離さなかった二人は、幸い近くにいた男性数名に引っぱり上げられてかろうじて助かったのです。その際、水を飲んでしまいました。「ヘドロっていうより、ガソリンのような、汚物のような、もう海の水の色じゃなかった。」全身濡れてしまったため、震えが止まりませんでした。駅前に車で避難していた女性にさいわいなことに着替えを借りることができました。続いて、駅前に止まっていた巡回バスに入れてもらい、暖房の効いた車内で一晩過ごすことができたのです。助け合いによって命拾いをすることができました。運転手は証言していました。海岸線を走っている時、日和大橋から海を見ると、すり鉢状態にえぐれているのを見て、こわくなったそうです。機転を利かせ、すぐに渡波駅まで引

き返していたのです。

家は堤防が決壊した海岸からまっすぐ四百メートルのところにあります。一階は津波に流されてしまったので改修中は親戚宅に身を寄せ、二〇一二年五月に戻ってきました。ここにいるのは怖いのでどこか別の場所に引越したかったのですが、一から建てるとなると、直すよりお金がかかるためやむなく戻ってきたのです。

「長浜の海水浴場もよく行きました。泳いだり、散歩もよく行っていたのに、あの津波以降、一度も行っていない。見たいは見たいようにな、しかし、行きたくもない行きたくない。ここ離れていても夜になると、すごい波の音が聞こえてきます。」

二人は一九六〇年に起きたチリ地震も経験しています。娘さんは五歳でしたが、当時のことをよく覚えています。「大宮神社に逃げた。お父さんが海を見に行ったら、おばあさんが『津波が来るから』逃げなきゃないよ』って。あの時は床下（浸水）ですんだ。」今回「駅の方へ逃げずに、二階にいれば水



石巻市伊勢町の戸別訪問の光景

没しなかったんですね。」避難の仕方については、チリ津波を知らない比較的新しい住人が多いせいかな、心の備えができておらず、あわてふためいて逃げるのがみな精いっぱいだったと思います。

「車に荷物積んでいる人を見て、『いいよね、車ある人たちって』ってつぶやきながら逃げました。しかし、町内の連携プレーというか『逃げっべし』って声を掛け合うことが必要だったと思うのに、悔やまれますよね。」海には堤防があるから大丈夫と逃げなかったご老人もいました。家にいる奥さんを迎えに行き流された人、家族を失った人たちを思うと、ただこう、べろーんとして生きていいのかって思います。（私たちが）生かされた命とおっしゃられるけど、いい方たち、立派な方も多く亡くなってるからね。」と、複雑な心境を語られました。

当時の反省点に立って、震災体験を冷静に振り返っておられます。見も知らない私たちにはじめて証してくださいました。

当機構は、在宅被災者訪問の活動を続けていきます。年末十二月七日、M7級の巨大地震がありました。避難勧告に高齢者や、耳の不自由な方たちと連絡が神戸からとれませんでした。現地も連絡網がないのです。

石巻市旧渡波地域で居宅介護支援事業所を開設できればと願います。余震が多い地元での生活を続けていくための心のケアを必要としている方々の助けになりたいと思っています。



株式会社 チュチュアンナ  
代表取締役社長

上田 利昭

tutu.anna™

MiYOSHI

ミヨシ石鹼株式会社

〒130-0021

東京都墨田区緑3-8-12

TEL 03-3634-1341



竹中工務店

www.takenaka.co.jp

新生田川共生会

(ホームレス自立支援の会)

TEL 078-392-0327

東日本大震災以降、  
神戸国際支縁機構に協力



## 稲刈り(その一)

山本 智也



いよいよ稲刈りスタートです。参加者が

味良い音とともに、みるみるうちに稲が刈られていきました。八、十株をひとまとめにして置いていきます。続いて刈り取った稲を束にして数本の稲わらでくるりと回していても簡単に束ねてしまいます。みんなポカンと見ていました。

十月、「田んぼアート」の古代米も生い茂り、傾むきかけている稲穂が目立ちました。八月の終わり頃が一番、コウノトリのデザインが際立っていたように思えます。

神戸からのメンバーは、稲刈りを経験したことがほとんどありませんでした。

震災で弟をなくされた阿部勝さん(七十歳)は、刈り方と束ね方を教えてくださいました。「ザクッザクッ」と小気味良い音とともに、みるみるうちに稲が刈られていきました。八、十株をひとまとめにして置いていきます。続いて刈り取った稲を束にして数本の稲わらでくるりと回していても簡単に束ねてしまいます。みんなポカンと見ていました。

通してできあがりです。これできっちり稲は束ねられます。稲刈りは刈るよりも束ねる方に時間がかかります。親指で押し込んで束を仕上げるのです。何十株も束ねていると、「親指が痛い」とか言い出し始めます。手伝わてくれた地元の農家のたくましい大場さんも初日で、「キツイベ」と音を上げておられました。

十一種類の古代米ですから、一度にコンバインで一気に刈り込むわけにはいきません。とてつもない作業に参加者の思いには二日間です。刈り終わるのだからと、よぎりまじり文句も言わず、黙々と稲刈りを続けました。初日には、三反の内ごくわずか、十分の一ぐらいしか刈り取ることができませんでした。

(次号に続く)

### 西欧の風景 情感豊かに 収益を震災復興に

洋画家 亀山 敏夫 氏

洋画家 亀山 敏夫 氏 山手町のタイモド 描いた風景画が震災復興に収益を貢献。4月1日、中央区で開かれた「90歳を越えての芸術家 亀山敏夫展」で、敏夫氏の作品が展示された。



亀山敏夫市長に絵を贈呈

神戸新聞 2012年3月28日



「ヒューマニティ・ファスト」  
日本アハマディア・ムスリム協会

ヒューマニティ・ファストは、震災翌日の3月12日、千人分の食料を積み込み名古屋から被災地へと出発。石巻市内の避難所でパキスタンカレーを提供。当機構と連携する団体です。

特定非営利活動法人  
**みもぞ**

TEL 078-262-0460

医療・保健介護・  
福祉・教育に関する事業  
共生社会の実現

不動産 売買・賃貸・管理・店舗は

**本田商会**

〒662-0051 西宮市羽衣町 5-23

電話：0798-38-7560

FAX：0798-38-7561

お気軽にご相談ください。



**ヤマザキ**

**世界のパン  
ヤマザキ**



KINSAN

夢に近づく  
夢を産み出す...

**近畿産業信用組合**

総合コールセンター

**0120-111-019**

